

湘友会報 2002

第44号・2002年発行
湘南高等学校湘友会事務所
 〒251-0053 藤沢市本町 3-1-3 湘南ビル 301
 電話・fax 0466-50-0386
 <原則として月・水・金の午後に係員在室>
 mail shoyukai@cityfujisawa.ne.jp
<http://www.shoyukai.org>

会報文中の氏名に付した 数字は卒業年次を表します。

2002年度湘友会総会のご案内

日時 平成14年6月22日(土)

受付 10時00分

開会 10時30分

場所 湘南高校内湘南会館(総会・アトラクション)

総会終了後懇親会 清明会館食堂(校内)

懇親会会費 3000円(当日会場受付で受領)

当日受付で80周年記念品(記念誌、絵はがき)湘友会名簿を販売します。当日は送料割引価格です。

湘友会総会へ多数の会員の出席を期待します。

今年度の総会では、会務・会計・監査などの報告と12年間活躍された杉山 巖会長²⁷が勇退されますので、後任会長の選任などの議事が行われます。

総会に続くアトラクションは、吉岡嶺二氏³²の講演、原善伸氏⁴⁴のギター演奏が行われます。大勢のお出かけをお待ちしております。

今年度の当番学年は 2回生(末尾1桁)シリーズです。

湘友会の会則が5年前に変わりました。新会則の眼目は、毎年の総会運営への輪番参加と十年会費納入制度です。従来の会則では、年会費は定めてあったものの適当な徴収方法がありませんでした。新会則では、西暦年号末尾と一致する年次が輪番で総会運営に当たるとともに、十年会費5,000円を納めるシステムになりました。但し、卒業10年未満と65歳以上の会員はこの対象から外しております。35,000人を越える会員に向けての会報発行や郵送費だけで年間数百万円にもなります。会の健全財政を維持するために、10年に一度の5,000円会費の納入に是非ともご協力をお願い致します。

西暦年号に合わせ、卒業年次の末尾が「2」の会員が総会後の運営にあたります。2002年の今年は32・42・52・62回の方々が中心です。

総会の受付は、湘南会館(多目的ホール)入り口に置かれます。ここで総会後の懇親会に出席の方は会費を支払っていただきます。母校創立80周年を記念し

て新しく作られた湘友会名簿や校内に展示されている卒業生の絵画作品の絵はがきや記念誌も販売されます。

湘南会館でのイベントの後は、会場を清明会館の食堂に移して懇親会が開かれます。食堂は庭に半円形にせり出したガラス張りのしゃれた小ホール、懇親会を取り仕切ってくれるのは42回生です。立食パーティで、毎年年齢を超えた楽しい語らいの場になっています。原さんのギター演奏も予定しています。

2002年 総会アトラクション

講演とギター演奏

- * 講演 吉岡嶺二氏(32回生)
- * ギター演奏 原善伸氏(44回生)

『吉岡嶺二氏による講演』

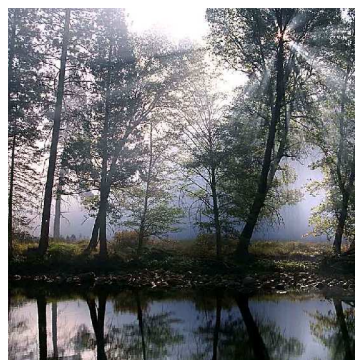
『日本五大島 9,700 キロ・カヌー就航』

吉岡嶺二(よしおか・れいじ)氏 略歴

1938年旧満州ハルビンに生まれる。湘南(32回生)から早稲田大学へ、卒業後1961年大日本印刷入社。その後関連のザ・インテック(株)に移り、昨年6月で現役引退、現在同社顧問。著作「カヌーによる全国膝栗毛シリーズ」

吉岡さんのユニークなところは、冒険家として名を馳せているだけでなく、会社の役職をこなすエリートサラリーマンでもあることである。

20年余の会社勤めの中で、土・日や有給休暇を利用してカヌーを操って旅をし、コースの研究や行く先々の地形、歴史、文化の綿密な研究はもとより、寄港地の人達とのふれあいを大切にされている事などに関して興味深い話が聞かれるに違いない。



長寿時代を迎えた昨今、余暇の上手な利用についてなど各方面から様々な提言がなされているが、この講演ではその解決のヒントになる話が聞けるものと期待される。

(次頁へ続く)

前頁より

原 善伸氏によるギター演奏

原 善伸(はら・よしのぶ)氏 略歴

1950年横須賀に生まれる。湘南(44回生)から日本大学芸術学部音楽科を卒業。ギターを奥田紘正、K.H.ベツナー、佐々木忠の各氏に師事。1972年日本ギタリスト協会新人賞を受賞。1976年ドイツ国立ケルン大学を首席で卒業。ブレーメン音楽院の専任講師に就任する。1979年帰国。現在、日本大学芸術学部音楽科講師。日本各地をはじめ、ヨーロッパでも広く演奏活動を行う。CD『グラン・ホタ原善伸ギターリサイタル』『ノクターナル原善伸ギターリサイタル』『原善伸ギターリサイタル』等を世に出している。

原さんのギター演奏の芸術性は、その幅広い演奏活動を通して、日本各地はもとより、ヨーロッパでも高く評価されている。更に、若手演奏家の指導やギター愛好家の拡大のためにも心血を注いでいる。

当日はクラシックギターの魅力を存分に味わせてくれる筈である。また、ウクレレがクラシックギターに何処まで迫れるか、その魅力や可能性についても、具体的な演奏を通して面白い話が聞けそうである。

(当番学年幹事 山田³²)

久しぶりの湘南に着任して



湘南高校校長
大澤 知來

湘友会員の皆様、お久しぶりにお目にかかります。今から8年前、まだプレハブ校舎であった湘南高校に全

日制の教頭として着任したのが、私と湘南高校の初めての出会いでした。それまで湘南高校の名前について、外では聞いていましたが、長野県出身の私がまさかその中で仕事をするようになるうとは、夢にも思いませんでした。プレハブ校舎の脇の空き地で行われた着任式。生徒の皆さんから自然に沸き起こった、明るく、あたたかな拍手。初めての着任当時のことを懐かしく思い出した次第です。大きな楠が、プレハブ校舎を見下ろしていました。

それから1年。新校舎が丘の上に建ちあがり、新しい生活が始まりましたが、私が湘友会の皆様と一番たくさんお会いしたのは、この時期でした。たくさんの皆様におたずねいただき、その都度、新校舎のご案内をさせていただいたことを今懐かしく思い出しております。これからもよろしく願いいたします。

会長辞任にあたって



湘友会長
杉山 巖²⁷

平成2年の6月に富岡先輩から湘友会会長(5代目)のバトンを受け継いで早や12年が経過した。初めは旧制中学から新制高校への過渡期に在籍した者ということで、仲間の推薦によりショートリリーフの役で大役をお引き受けした。多くの先輩や、同窓生そして後輩諸君に支えられて、無事、母校の70周年、80周年の節目を越えることが出来た。時にその中間にあって、校舎の建替えがあり、丘の上か下かの大問題に直面した。当初の丘の下案が変更になり、校歌どおり丘の上に聳える新校舎が出来て本当に良かったと思う。湘友会にも改革の手を入れたが、まだまだ不十分である。全国の有名校の同窓会に勝るとも劣らぬものにしなければならぬ。これから90周年、100周年に向けて一步一步体制を整える必要がある。3万数千人の英知を集めればもっともっと充実させることは可能である。

これからは長寿高齢化の社会がやってくる。湘南の丘に学んだ絆を大切に強力なネットワークを張って“まとまりの良い集団”を形成してほしい。

会社勤めのサラリーマン会長で十分ご期待に応えることはできなかった。微力ながら精一杯努力したところをお汲み取りいただければ幸いです。ご協力いただいた多くの諸君に重ねて感謝のお礼を申し上げ辞任の言葉としたい。

杉山会長が勇退

.....長い間のご尽力ありがとうございました

大澤新校長が着任

.....湘南高校の発展をよろしく願います

湘南高校 Now



湘南高校は昨年(2001年)創立80周年を迎えた。激動の二十世紀を越えて21世紀の最初の年に創立80周年を迎え、湘南高校の輝かしい歴史を振り返り、新たな出発を誓うべく、盛大な記念式典を6月21日、鎌倉芸術館大ホールにおいて挙行了。全校生徒が参列し、多くの来賓にご出席いただく中で、校長、生徒会長、同窓会長、PTA会長の祝辞に続き、吹奏楽部による祝賀演奏が行われ、さらに応援団による勇壮な演技と校歌斉唱はこの記念式典を大いに盛り上げ、参列した生徒並びに来賓に感銘を与えることとなった。式典終了後、来賓は用意された貸切バスに分乗、PTA主催による祝宴に向かった。祝宴は江ノ島と相模湾を目前に望む湘南ホテルを会場とし、卒業生有志による演奏を背景に和やかな雰囲気の内進行、会場のあちこちに賑やかな談笑の輪が広がった。本校では、同時に80周年記念誌を発行し、さらに記念品として、現在までに湘友会に寄贈されている卒業生の絵画作品から厳選した8点による絵はがきセットを作成している。

我が国における若年人口減少の余波は湘南にも押し寄せており、78回生(現3年)からは9クラスとなっており、今年の新入生は8クラスとなっている。かつては全学年で36クラス(1クラス48名)を擁したことを考えると、現在の26クラス(1クラス40名)ではいささか寂しいような気もする。しかしながら、こうした減員にもかかわらず部活動は相変わらず活発に展開されており、部員不足に悩む部もあるものの、部の廃止といった深刻な事態には当分至りそうもない。内容的にも、フェンシング部の連続インターハイ出場、野球部の夏の甲子園県予選での4回戦進出等、充実した成果をあげている。五月の浦高戦、六月の文化祭、九月の体育祭を始め対組競技など各校内行事も順調に実施されている。体育祭ではクラス減にともなう措置として、02年度から消滅することになった赤色が総合優勝。その有終の美を飾り、まさに伝説のレッドとして歴史に残ることとなった。

卒業生の進路においても大きな変化はない。かつてのような東京大学合格者数全国ベストテン入り、といった派手な話題は無いが、東大にたくさん合格するから良い高校、などという発想は今さら時代錯誤というものだろう。詳細は別資料に譲るとして、注目に値するのは現役合格者の比率が年々増加していることで、約半数の生徒が現役で大学に進学している。いずれに

しても、早期に自らの志望を定め、主体的な努力を着実に重ねる生徒が栄冠を手に入れていることは、従来から変わらない事実であろう。

02年度からは公立学校に完全週休二日制が導入され、授業は週に5日間となった。土曜日の分の授業数減に対応するため、湘南では週に2回5時限目が設定された。この日は70分授業が5回あり、午後4時まで授業が行われる。部活動等、課外活動の時間への影響等が懸念されるところであるが、湘南高校生はこうした新たな状況を見事に切り抜け、さらなる前進を見せるであろうことを確信している。

(校内幹事：川田⁴⁶)

2002年春、以下のような職員異動がありました。

(略)

ウェブ版湘友会報についてのご説明

ウェブ版は、**会員のみならず会員以外の不特定多数の方々にも参照されるため、次の改変を行っていますのでご了承ください。**

会員の氏名は、名前は削除し、姓のみ記載。また、連絡先住所電話番号等は削除。
ただし、会長、副会長、校長先生、著名な方、故人の姓名は原文のまま。

決算・予算報告、教職員の異動、委員会等の組織の構成員のリストは割愛。

湘友会ウェブマスター

支部だより

藤沢支部

2001年は、8月25日6時より藤沢グランドホテルにて120名の参加を得て総会を開いた。

支部長、副会長、校長の挨拶の後、会計報告を行い、その後アトラクションに移り伊藤³⁸君の率いるジャズ生バンドを聞き立食パーティに移った。皆リラックスし社交ダンスも飛び出し、賑やかな一時が流れ旧交を温めた。「慶応大学のノリ」という声も出るほど楽しかった。

2002年は、8月24日午後6時より藤沢グランドホテルにて開催する。今年はガラッと趣向を変えて「湘南市構想にちなんで」の演題で、藤沢市が今取り組んでいる課題を皆さんと考えようと、前茅ヶ崎市長根本康明君²⁸のお話を聞く企画です。お誘いの上多数いらして下さい。幹事一同心よりお待ち致しております。勿論おいしい立食パーティ、豪華な景品が当たるビンゴゲームもありますよ。（宮代³⁶）

鎌倉支部

鎌倉支部でしばらくぶりの総会

平成6年に総会を開いて以来、毎年幹事会を開いていた鎌倉支部（鎌倉湘友会ともいう。含逗子・葉山）では、「湘友会鎌倉支部総会」を開くことになった。総会への出席と鎌倉支部の活動の活発化が期待される。

「湘友会鎌倉支部総会」は下記の通り開催されます。恩師もお呼びし、トークショー「湘南今昔談義」やラテン音楽演奏も予定して楽しい夕べとしたいと思います。鎌倉・逗子・葉山在住の同窓生（含在勤・以前在住など）関係者多数の皆様、お誘い合わせの上ご出席下さい。

日時：8月17日（土）午後5時～7時30分
 場所：鎌倉芸術館（大船駅徒歩10分）0467-48-5500
 会費：1万円（含湘友会への寄付・恩師への記念品代）
 参加連絡先：湘友会鎌倉支部事務局

参加申し込みは、上記連絡先へはがき・Faxのいずれかで8月3日までに、氏名・住所・電話番号・卒業年（友人連名も可）をお知らせ下さい。なお、当日になっての出席取り消しはご容赦下さい。

（内海³¹）

平塚支部

2001年12月1日（土）午後6時よりスポーツプラザ神奈中平塚において、54名の会員の出席をいただき、平成13年度の総会を開催致しました。飯島則忠支部長²⁶の挨拶で始まり、来賓の齋藤校長先生にはご挨拶のなかで、母校の近況等もお話頂きました。

議事のあとの「カンツォーネの夕べ」では、内藤正彦氏³⁰のすばらしい歌声に耳を傾け心をなごませることができました。その後の懇親会では、細谷真澄先生が乾杯の発声をされ、賑やかに一時を過ごした後、

全員で校歌・応援歌を斉唱、来年の再会を楽しみに散会いたしました。

なお、当支部では平成12年度より支部運営費を賄うため、年会費制(1,000円)を頂いております。平塚に在住・在勤あるいは平塚に縁のある方々(在校時、平塚および平塚以西からの通学の方など)約250名の会員のご協力を頂いております。（田中³⁶）

湘北支部

大和・相模原・座間・綾瀬・海老名がそのエリア。戦後しばらくしてから狭い地区割りの学区制がしかれた影響で、当地区からの入学者は激減しました。そのため平成10年になり、ようやく従来の大和支部を発展的に解消し、湘北支部創立をしました。この地区特有のカラーで企画運営しております。ちなみに会員は約1,000名です。（支部長 広井²⁰）

茅ヶ崎支部

2002年11月23日（祭）恒例の支部総会が、来賓に齋藤校長・杉山湘友会会長・澤参事・川田幹事をお迎えし、74名の参加者を得て、「阿部浅」にて開催された。今回は添田先生と26回生で著名な音楽家であられる湯山昭氏のお二方の講演をメインに据えた。

添田先生は毎回支部総会にご出席戴きご挨拶を戴いているのだが、何時も思いを残して終るので、今回は少し長く時間を取り、「湘南」と茅ヶ崎の同窓生の結びつきを鮮明な記憶を基にお話しいただいた。



湯山昭氏には現在の音楽家としての活動と、幼少の頃から現在に至るまでの半生を話して

いただいた。その時々の人との出会いの中で自分が作られて行く過程を、情熱を込めてお話いただき深い感銘を参加者に与えた。詳しい内容については別に掲載されている「人・生き生き」をご覧ください。

茅ヶ崎は現在学区外でもあり若い世代の同窓が少ないが、なるべく若い同窓にも気軽に参加できるようにするのが課題である。また隣接する寒川の同窓が地域として独立するまで一緒にやったらという気運もあり幹事として執行体制にも参加していただいている。

（茅ヶ崎支部長・篠田³³）

湘友会支部は、上記の他、大磯、西湘、県央、横浜、横須賀、東京が設けられております。支部長の連絡先は湘友会名簿2001の7頁にあります。

定時制部会より

定時制部会長 田添 正

定時制部会の主な活動

毎年6月の文化祭当日に定時制部会総会を開催、定時制部会報の発行、入学式・卒業式・体育祭での後輩の激励、卒業記念品の贈呈、全国大会出場選手への補助を行っています。

定時制創設50周年記念「第1回全体同窓会」の報告

定時制50周年記念と与野先生の文部大臣賞受賞祝賀会を兼ね「第1回全体同窓会」を平成10年9月6日、藤沢市民会館で開催しております。全国から120名の同窓生や元教員が参集し、アットホームな雰囲気で大盛況に開催されました。

平成13年度定時制部会総会報告

21世紀初の平成13年度総会が、13年6月17日、母校「応接室」に於いて、大柴教頭先生をはじめ、与野先生、福元名誉会長を含め14名が参集して開催されました。学校側からの現状報告のあと、参加者全員から近況報告があり、教え子を代表して唯一の女性会員から与野先生にバラの花束が贈られました。当日は文化祭で現役の展示発表があり、激励後会場を学校前の「よしみ」に移し与野先生を囲んで親睦会が行われ思い出話に花が咲きました。

事務局人事と平成14年度総会のお知らせ

部会発足時から、20数年にわたり事務局長を務められ、事務局全般を取りまとめて頂いた阿部君²¹と会計担当の石塚君²¹が、諸般の事情により平成13年度限りで勇退する事になりました。両名の長年のご苦勞に対しお礼を申し上げます。なお、後任の事務局長には副会長の鈴木君²¹をお願いする事になりましたのでご報告致します。

また、14年度の総会を6月16日(日)13時から母校の応接室で開催しますので多数ご参加下さいませようお知らせいたします。

通信制同窓会より

集い、そして語り合おう!

むつみ会会長 若命徳達

月日の経つのは早いもので、平成7年11月に会長をお引き受けしてから7年になろうとしています。

この間、静かに眠りについていた会を起こしゆっくりと歩き始めました。平成8年には同窓会を開き、同年に「むつみ会」誕生35周年記念同窓会も開きました。両同窓会ともお世話になりました先生方のご出席も頂き楽しい集いが出来、新たに「むつみ会」の1頁を刻む事が出来ました。そして、年1回の会誌「むつみ会」の発行も軌道に乗りつつあります。

平成15年は「むつみ会」の誕生40年にあたります。皆さんに参加して良かったと言われるような同窓

会にしたいと幹事一同企画いたしますので気楽に参加してください。私たち通信制は全日制・定時制のみなさんと比べて登校日数はわずかで卒業していますので、積極的に参加して恩師との語らい、男女差・年齢差を越えた語らいの中から、楽しく有意義に年を重ねてほしいと思っております。

湘友会は全日制・定時制・通信制の三課程の卒業生から成り立っており、私ども「むつみ会」もいろいろお世話になっております。湘友会の総会では、全日制的幹事の皆さんが毎年担当学年幹事を変わりつつ、総会後のアトラクション・懇親会等、趣向を凝らした企画をしていただいております。皆さんも湘友会の総会に出席してみてください。受付では通信制の係がお待ちしております。

最後に「むつみ会」の活動にご理解、ご協力を頂いております湘友会会長をはじめとして皆様に紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

学年便り

10回生

湘友会報2001号にて、添田先輩より記載報告された通りの次第で、若き心で、「悠久の会」と命名して、既に第1回の総会は平成12年5月14日に13名参加し、添田先輩の激励を受け、第2回の総会を平成13年5月20日、定例の東京八重洲口ルビーホールで、「長年生かして頂いているのだから、世の中の人のためにも、お国のためにも、努力して、お役に立つ様、健康管理をし、毎年元気で出会い出来る様に努めましょう」と言う代表幹事村氏の開会の挨拶に続き、小市幹事(アララギ派の中心的存在)の乾杯で開始。来賓の添田先輩から最近の湘南高校の近況をお話し頂き、続いて各人の近況等を報告し合っ、声をかけ合い、特に浜松から上京した原田会員から自動車産業の状況を、また八木会員からは世界経済の状況を話してもらい、楽しい時を過ごしました。12名参加。

来年は、5月12日(日)を同じ場所で予定しています。(曾我 記)

12回生

去る4月19日(木)、平成13年度(17回目)の同期会を開催した。会場は藤沢在の茶寮「若狭」、午後1時から開始、集合



人員は16名である。

昭和7年入学時150名余であったが、現存推定人員は42名で、70%以上が世界した。

全員が八十路を越えたと思う。賑やかに2時間談笑し、来年は卒業65年に当たる、盛大に同期会を開催しようと約し、解散した。(溝延 記)

16 回生

平成 14 年 4 月 1 日開催の同期会は、前回より 5 年を経過し、物故なされた先生・会員が 18 名を数えるに至り、これらの方々を含めた慰霊祭を兼ね、鎌倉の名刹『浄智寺』で執り行われました。同期生の住職・朝比奈宋泉師のお陰で格調高い会となりました。

今年で同期生の生存者 89 名・物故者 97 名となり、物故者数が生存者数を上回りました。殆ど 78 才以上となった我々の年齢での 40 名もの出席ということで、一同大いに感激いたしました。さらに、我々にとって嬉しかったのは、春原先生が 92 才のご高齢を押してご夫妻でご参加下さったことと、今回 60 年ぶりに初顔の会員が 2 名増えたことでした。

満開を過ぎた葉桜の下ではありませんでしたが、前日と打って変わった絶好の同期会日和に恵まれました。定刻 11 時、庭園での出席者一堂に会しての記念撮影、本堂で多賀君の司会で朝比奈師読経での慰霊祭を行いました。その後庫裏に場所を移しての懇親会は田丸君の開会の辞で始まり、春原先生の乾杯の音頭で宴会と歓談に入りました。会員一同久しぶりの懐かしさで懐旧談が弾み、春原先生と昔の思い出話を交わすなど時の経つのも忘れませんでした。先生ご夫妻をお見送りした後、次回の幹事（横浜組）の紹介をし、大塩君が閉会の辞で締めくくり懇親会は暖かい余韻を残してお開きとなりました。（若尾 記）

18 回生

18 回生は毎年秋に同期生会を開催しているが、平成 13 年は平塚・茅ヶ崎地区が幹事役となり、秋晴れの 9 月 25 日に平塚市南口そばの平塚プレジールで開催、昨年とほぼ同数の 54 名が参集した。残念なのは欠席者の中に体調不調のため出席できないとの回答を寄せる者が目立つようになったことである。

毎回、春原・添田の両先生にはお越し頂いているが、今年も両先生のお元気な姿を拝見して、われわれも頑張らなければという気持ちが湧いてきた。添田先生からは、母校のすばらしい校歌のでき上がるまでの知られざる興味深いお話を伺うことができた。

懇親会に入り、お互いに酒を酌み交わしての歓談、時の経つのも忘れての旧交を温める宴となった。

来年は藤沢地区が幹事を引き受ける事として、校歌を斉唱して解散。（池田 記）

20 回 4 卒の会

9 月 26 日、藤沢グランドホテルで予定通り総会が行われ、出席予定 76 名中、69 名が元気に集いまし



た。春原先生は 22 回学年会と重なるも、時間調整の

結果、ご老体に拘わらず出席戴き、我々の会場から次の会合に駆け付けられ誠に恐縮致しました。

今回は 21 世紀最初の総会のため、特別記念として西川 / 橋本（秀）君のエレクトロニクスの演奏を聞き、最後に「学徒動員の歌」を皆で歌い、青春の思い出を深くしました。

我々の総会は「全員参加」「手造り」をモットーとし、多くの会員の協力で運営され、特に、欠席の方に会の雰囲気をお伝えし消息を通して交流を深めるため、会報送付を今後とも継続したいと考えております。

次回は、平成 14 年 10 月 10 日（木）同じ場所で開催しますので、多数の方々のご参加を切望致します。（松本 記）

21・22 回生

2001 年 9 月 26 日に、前年と同じ箱根・パークス吉野で一泊の会を開いた。ご出席の予定だった金子先生が、腰を痛めて欠席されたのは残念だったが、今回は、春原・添田両先生はじめ 50 人近い同窓生が参加し、にぎやかに楽しい一夜を過ごした。



久しぶりにこの会に元気な顔を見せてくれた諸兄が近況を報告、

また九州・柳川の白秋記念館に、湘南高校の校歌が展示されたいきさつが話題になるなど、歓談は二次会まで続いた。春原先生が話された「自然体で生きる」は、九十翁のお言葉だけに一同納得。一方、この 1 年間で旧友がまた 7 人亡くなられたことは痛恨に堪えず、ご冥福を祈って黙祷を捧げた。次回、鎌倉での再会を約して散会。（藤沢地区幹事 K・T 記）

27 回生

創立 80 周年を記念して母校へ寄付

昨年の 5 月 12 日、27 回の同期会「不作会」の席で、母校の 80 周年を記念して、寄付を送ろうとの発案がなされた。どうせするなら、切りの良いところでということで、額は 100 万円に決まった。6 月 21 日の 80 周年記念祝賀会の席で、不作会会長・和田氏より湘友会会長・杉山巖氏へ寄付が託され、杉山会長から齋藤学校長へと渡された。

寄付の趣旨が「学生のためになるような使い方」とのことであったので、既に学校では生徒昇降口の掲示板を購入した。今後、進学情報の掲示や、生徒会・部活の連絡などに活用が期待される。（幹事 記）

30 回生

平成 13 年 11 月 17 日（土）午後 3 時より藤沢市民会館にて第 11 回同期会を開催した。

当日は、恩師 6 名、同期 96 名の出席があり、遠くは福岡、大阪、長野、奈良より駆けつけた仲間もおれ

ば、卒業以来初めて参加した仲間もあり、記念撮影後、若い女性演奏者が奏でる曲を聴きながら歓談した。

最後はおきまりの「校歌」「青春の歌」を高らかに歌い、午後5時30分に特注のお土産（校章・卒業年次入りの文明堂カステラ）を手に、再会を期してお開きとなった。

尚、今年度の第12回同期会は、湘南高校入学50周年に当たり、来る11月16日（土）開催の予定である。（遠藤 記）

31 回生

平成13年6月23日（土）に開かれた湘友会総会のアトラクションを31回生が担当した。その後の懇親会を含めて総会出席を31回生の同期会と言うことにしたので、その報告をさせていただく。アトラクションは「全員で校歌・応援歌を歌おう」ということで趣旨説明がなされた後、天野君の軽妙な司会で、杉野氏²⁷指揮の下に吹奏楽の多彩な演奏がおこなわれ、特に後半の校歌・応援歌の全員での斉唱は参加者全員、一時、気分は湘南時代に戻ったようだった。吹奏楽演奏の卒業生・現役には石井・小沢・佐藤の各君も加わり、校歌・応援歌の全員での斉唱時には、多数の31・41・51回生の合唱部OB・OGが前に出てリードした。母校80周年記念の年の総会で出席者も多かったが、31回生も70名余りが出席した。その後の41回生担当の懇親会は、葉山君の開会の辞に始まった。懇親会終了後には31回生だけの集まりも持つことができた。フジビューでの二次会には40名を越える参加で盛り上がり、31回生のまとまりの良さを感じた楽しい日であった。

（内海 記）

34回生

去る4月15日（日）に、15年ぶりの第34回生同窓会を東京飯田橋のホテルエドモントンで開催。出席者は卒業生の3分の1強にあたる140名で、恩師として、斉藤、武藤、望月、各先生のご出席をたまわりました。

我々は昭和15年または昭和16年生まれで、すべてちょうど還暦にあたります。15年ぶりの同窓会ですので、最初は顔と名前が一致しないような光景が随処に見られましたが、あっという間に全員昔の湘高生に戻り、和気あいあい、最後に岩井応援団長の指揮の下、校歌、応援歌を唄い散会致しました。（伊藤 記）



36回生

2001年9月24日湘南ホテルにて、2年ぶりの同期会開催、気持ちよく晴れた夕刻、夏の名残の海風に吹かれながら70名が集まった。健康に感謝して乾杯、久しぶりの再会に話が弾む。細谷先生のスピーチ



後、記念写真、大三輪君の中国陶磁

器発掘小話、清田保南老師の話、先輩梅沢氏の洒落たピアノ演奏と短い時間を楽しく過ごした。

来年は還暦に入る。清田保南老師曰く「<60代はハナタレ小僧>とのこと、今日の集いをばねに壮快な日を送り、再会を誓った。（市川 記）

37回生

既に各クラス幹事から通知が届いていると思いますが、今年6月に5年ぶりの学年会を開催します。

開催日 2002年6月15日（土）

午後4時～6時30分

場所 藤沢産業センター8階情報ラウンジ（藤沢駅至近）

通知が届かない方は、住所不明になってます。下記のクラス幹事又はmailまでご連絡ください。

31 大谷/32 長谷川/33 加藤/34 青木/35 原田
36 櫻谷/37 古賀/38 三枝/女林田

37回生
集合！

（大谷 記）

49回生

2001年7月7日、クリスタルホテル藤沢にて、約



170名に及び同期生が集い、4名の恩師の先生方のご出席も

たまわって、同期会を開催した。

「会えば楽しい」と題して開かれた会であったが、久しぶりの再会にその通りの愉快的楽しい時を過ごすことが出来た。（長澤 記）

52回生

1977年（昭和52年）卒業生である52回生は、今年で卒業25周年を迎えます。四半世紀（Quarter Century）ということから「Project-Q」と命名されたこの同窓会に、同窓生のみなさん、奮ってご参加ください。

* 日時： 2002年8月24日 15:00～17:00
（Tea-Party：13:00～）

* 場所： JR東京駅八重洲南口より徒歩5分
八重洲富士屋ホテル「櫻の間」

* 幹事： 勝又（33）・山田（37）・花田（30）
詳しくは、52回生ホームページに記載。

（花田 記）

66回生 10年ぶりに集う

66回生が、卒業してちょうど10年となる昨年12月29日(土)、藤沢グランドホテル(18:30~21:00)にて初の同窓会を開催した。学年主任の堀田先生はじめ、石黒・増尾・井上・加藤・駒形・矢島・奥田・宮代・松本・茅野各担任の先生方が出席され、約290名の同期生が顔を揃えた。

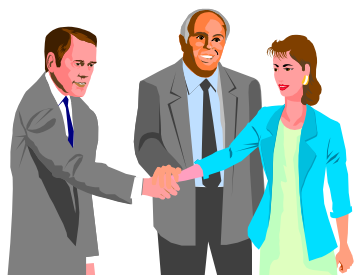
2ヵ月前からホームページを開設し、当日参加できない同期生とも交流。世界各国に在住している同期生からのアクセスも多数あり、掲示板の書き込み件数は600件近くにもおよんだ。当日は、ホームページの書き込み番号による抽選会や書き込みの一番少なかったクラスが湘南体操を披露(指南役には矢島先生が湘南ジャージを着て登場)するなどホームページと連動した内容も盛り込まれた。また、当時の色Tシャツや体育祭の冊子など懐かしグッズの展示コーナーを設けた他、フォーミュラ・ニッポンのレーサー土屋君ら各方面で活躍する66回生の紹介、恩師からの言葉、最後は校歌斉唱と記念撮影で散会した。

“これからのおつきあい”をテーマとしたこの同期会を機に、66回生はホームページを軸にして今後もさらに絆を深められるよう活動を続けていく予定だ。

湘南高校66回生ホームページ

<http://shonan91.hoops.ne.jp/>

(片貝 記)



いろいろ湘友会

横浜湘友会

平成13年12月11日(金)午後6時30分より、相鉄グループの横浜駅西口「横浜ベイ・セラトンホテル&タワーズ」にて第12回“横浜湘南会”を開催。今年は県議会開会中で岡崎知事の参加は叶いませんでしたが、ゲストに鈴木湘友会副会長³⁶、澤湘友会参与²²、亀井善之衆議院議員³⁰、池田元久衆議院議員³⁴、番場定孝県会議員³⁴、松中健治鎌倉市会議員³⁶等いつも通り多彩な顔ぶれを迎え、片岡君³⁷の司会のもと後藤支部長³⁸の挨拶に始まり、鈴木湘友会副会長の来賓挨拶、相原君の乾杯、議員の方々の紹介があり、常連や新顔65名余の会員が集い思い出話や商談に花を咲かせ、賑やかに懇親の一時を過ごしました。最後に、来年の再会を約して散会。(片岡³⁷)

九州湘友会

今年度の九州湘友会はH13.11.12とH14.2.25に2度開催致しました。毎回10名前後の参加ですが、和気藹々楽しく懇談しております。特に湘南とは遠く離れたこの九州の地で母校を懐かしく語ることは格別です。2月には九州湘友会OBの方々にもお声をかけましたが、皆さんお忙しく、1名のみでの参加と少々残念な結果でした。次回からも色々企画を練り、お誘いしてみようかと考えています。

今年度は、先ず博多祇園山笠祭前夜の7月14日に開催予定です。九州在住の湘南OBの皆様からのご連絡をお待ちしております。

連絡先：佐藤⁴⁵

湘友会西日本支部

第10回西日本支部総会は11月17日(土)午後4時から開催、毎年11月の最終土曜日が総会と決まっているが、今年は鈴木幹事長³⁵の令嬢の結婚披露宴と重なるため、一週間繰り上げたせいか参加者が少々減って35名。会場は例年通り鈴木幹事長経営の天満の「福屋」。司会は平岡氏³²、新支部長井沢氏³²の開会の挨拶から始まり、ここ数年藤沢から必ず出席する本部参与の澤氏²²から母校の近況や80周年の祝賀会・記念行事・新名簿・記念品(学校に寄贈された湘友会々員の絵画から作った絵はがき)・記念誌『湘南』などについての報告の後、長老・菅井氏の発声で乾杯。幹事長が腕を振ったフグ料理(フルコース)が並び、懇親会に入った。懇親会では、自己紹介に続いて各自の近況報告が行われ、この間に幹事長令嬢の結婚祝いカンパの提案があり、三万数千円が集まった。幹事長の店での総会が長時間にわたる(5時間ぐらい?)のがこの支部総会の特徴で、充分歓を尽くした後、校歌斉唱で閉会。有志十数名が二次会へと繰り出した。

残念だったのは、西日本支部育ての親である前支部長・井上氏³⁰が風邪で体調を崩され欠席されたことである。長い間、支配人を務められた「大宝塚ゴルフ場」をお辞めになり、現在は病院関係の仕事に転職された由、来年にはお目に掛かれることを楽しみにしている。(澤²²)

福祉湘友会

1月19日(土)藤沢市民会館にて慣例の新年会を開催致しました。今回も非常に幅の広い世代の19人が集いました。初めて参加された方の中には、定年退職後に資格を取られ、福祉に関わられるようになった方が何人かいらっしゃり、他の参会者はその心身の若さ、情熱に感動させられました。

発足6年目、会員は150名を越え、多くの湘南のOBが福祉に関わりを持たれています。時代も湘南も変わったと良いのでしょうか。

今回は7月に、湘南高校清明会館にて研修と懇親の回を開催する予定です。テーマは「心身喪失者処遇法案の問題点」を考えています。(奈倉³⁷)

問い合わせ連絡は下記へ
奈倉

サッカー部 OB 会

創部 80 年記念蹴球祭開催：

湘南サッカー部 OB 会「80 年記念・蹴球祭」が1月13日(日) 湘南高校グラウンドで開かれました。

サッカー部は、学校創設と時を同じくして創部され、昨年 80 年を迎えましたが、「校技としてのサッカー」は、戦前より県代表として各地の大会に出場し、全国大会優勝・準優勝の成績を収めるなどしてきました。

昭和 30 年代前半、成人の日(1月15日)に OB 達が母校のグラウンドに集い、OB 紅白戦・現役との交



流試合など、1日サッカーを楽しみながら親睦をはかる「蹴球祭」が始まり、今日まで続いた蹴球祭は、80年記念として、我が校と同様に伝統があり、良きライバルである小田原高校 OB の方々をご招待して行われました。グラウンドには湘南 OB 80 余名、小田原 OB 50 余名が集まり、10時から15時まで各年代別(20代~50代以上)の交流が行われ、「親善」ながら白熱した試合で大いに盛り上がり、楽しみました。

その後、現役生も参加しての OB 会 80 年記念総会では、現役生徒による校歌・応援歌がホールに響き、OB 諸氏は久しぶりに聞く歌に感動しました。総会后食堂で懇親会がもたれ、齋藤校長先生にも出席・挨拶を頂き、小田原 OB の方々とともに昔話や、W杯の話などに賑やかな一時を過ごし、現役の更なる活躍を期待・祈念してお開きとなりました。今後とも、サッカー部並びに OB 会へのご理解、ご協力を宜しくお願い申し上げます。(相羽⁴¹)

第 5 回湘中剣道部 OB 会

好天に恵まれた平成 13 年 5 月 13 日、第 5 回湘中剣道部 OB 会は 1 泊 2 日で、会長稲葉(旧姓森)さん¹⁷ ご子息経営の、伊東市高台にあるロッジ・マストランプで行われた。参加総勢 11 名。



伊東駅に我々を迎えてくださった会長ご夫妻に案内され、海岸通りの店で美味しい蕎麦

をご馳走になり、ロッジに向かった。新緑・巨岩に囲まれた露天風呂に浸かってリフレッシュ、心づくしのフランス料理のフルコースに舌鼓を打ち、その後、湘中校歌・応援歌・また 18 回生の湘中回顧の賦を歌い、夜の更けるのも忘れて語り合った。翌 14 日も五月晴れ、風もなく、ご子息自ら操舵するプレジャーボートに乗船して海上からの伊豆の眺めを満喫した。会長ご夫妻とご子息一家に心より感謝する次第である。(松田²⁰)

バレーボール部湘友会

前会長三觜利仲氏(昨年 7 月逝去)の後任会長に大隈氏²⁴ が就任、氏は第 1 回全日本高校男子選手権大会(昭和 23 年)で準優勝時のエースアタッカーで優秀選手にも選ばれました。

三觜杯(対組バレーボール男子優勝杯並びに女子優勝杯)を母校に寄贈

前会長三觜氏は、昭和 5 年排球部創部以来昨年 85 才で逝去されるまで生涯をバレーに捧げ、「バレーボールを通じて精神と身体を鍛え社会人として一流の人間になる」をモットーに母校バレー部の発展にも多大に寄与されました。このような偉大な先輩を称え、その名を永く母校に留め、氏のバレーボールに対する情熱と理念を現役生徒諸君に引き継いで頂きたいと寄贈しました。

部史「我が青春 湘南 9 人制バレーボールの歩み」を平成 13 年 11 月発刊。昭和初期の現役生徒の文章をはじめ、昭和 40 年までの 9 人制バレーの歩みのみにとどまらず、他の運動部の戦績・学校の主な出来事なども掲載したユニークな部史となりました。

湘南バレーボール祭は毎年 8 月第一日曜日に母校で開催され、現役生徒と OB との交流・OB 同士の懇親を図っています。昨年は 8 月 5 日に清明会館で開催しました。今年は、8 月 4 日開催の予定です。多数の OB の参加をお願いいたします。

バレーボール部湘友会事務局

(宮地²⁷)



毎号連載されてきた湘南紳士録に替わって
今回から「人・生き生き」シリーズが始まります。

人・生き生き

作曲家・湯山 昭 さん(26回)に聞く



ゆやま あきら
昭和7年(1932)
生まれ。平塚市出
身。東京芸術大学
作曲科卒。作曲家。
多くの合唱曲・童
謡、また子供のため
のピアノ曲・器
楽曲など、多方面
に作曲活動を展開。

1970年、合唱組曲「コタンの歌」で芸術祭大賞を受賞。
現日本童謡協会会長。日本音楽著作権協会評議員会議長。

< 諏訪町の放送局 >

祖父はずいぶん私を可愛がってくれまして、父が2歳の頃亡くなっていたので、父親代わりでした。夕食後、胡座を組んだ祖父の膝の中に私がすっぽり納まって、目の前に新聞を広げて記事を読んで聞かせるのですが、その記事の言葉に即興で節をつけてアホダラ経のようにして私が唱うので、祖父は「面白い子だ」と言って嬉しがったものです。素人義太夫独演会を家で催すくらい芸事好きな祖父で、母も私も歌が好きでしたから、その血を引いているんでしょうね。

6歳の時、李香蘭(山口淑子)主演の映画「支那の夜」を母と見て、直ぐに主題歌の「蘇州夜曲」を覚えてしまい、庭の木に上っては「君がみ胸に～」と唄うものですから、近所の評判になって、「諏訪町の放送局」と渾名されたりもしました。

小学校の教員だった母は、私が歌が好きだということで、知人についてピアノを習わせました。その頃はピアノがある家などなく、男の子がピアノを習うなど白眼視されるような時代だったんです。先生のお宅で初めてグランドピアノを目にして、「ああ、これが本物のピアノか」と強い憧れを抱いたものです。「どうやって家で練習するのか」と聞くと、「紙鍵盤でやればいい」と、母も先生もいたって気楽でした。紙鍵盤では味気なく、小学校のオルガンを弾かせてもらったりもしましたが、やはり物足りなかったですね。

昨日まで自転車の荷台に私を乗せていた祖父が、突然の交通事故で亡くなったのは、昭和17年、私が10歳のことです。愕然としながら、その時初めて人の世の運命というものを感じた気がします。

< 紅白饅頭の代わりに吹奏楽 >

中学受験のためピアノのレッスンを断念して準備し、昭和20年、湘南中学に合格できました。実は、湘南に合格したことが音楽の道に進む大きな転機となったんです。入学式の終わりに、赤木校長先生から「戦時下で祝いの紅白饅頭を配れない代わりに、本校名物の吹奏楽を聴かせよう」と紹介があり、そこで耳にした「バクダットの酋長」の演奏は印象鮮烈でした。さっそく吹奏楽部に入部を決めて行進の先頭に立つトロンボーンを選んだんですが、音楽で自己主張したい気持ちがあったのだと思います。

昭和20年7月16日、平塚市は夜間大空襲に見舞われました。焼夷弾の降る中、母と二人手を繋いで逃げ、地面に這いつくばった恐怖は、今なお忘れられないものです。九死に一生を得、我が家も奇跡的に無事でした。あとき焼夷弾の直撃を受けたり、家が焼けてしまっていたりすれば、今の自分の人生はなかったと思うと、つくづく天運の不思議を感じます。

戦後、学校の剣道場でアメリカ映画が上演されたことがあります。パサデナ市ローズパレードのカラー記録映画でしたが、ヤンキー娘たちが踊るパレードの背後に流れる音楽が素晴らしかった。シャブリエの「スペイン狂詩曲」でした。音楽にこんな豊かな色彩があるのかと目が開かれる思いがして、それから一週間、道を歩いていてもその曲が頭の中で巡り続けて離れなかったものです。私の場合、節目節目に音楽との強烈な出会いがあるのですが、これもその一つです。

どうしても自分の楽器が欲しくて、父が遺した上海土産の麻雀碑を古道具屋に売ってバイオリンを買い、習い始めました。この経験が、後で「ヴァイオリンとピアノのための小奏鳴曲」を書く原点になるのですから、人生何がどう幸いするか分かりません。心の中ではピアノを弾きたい気持ちがいつもあって、合唱部なら弾けると考えて入部したところ、指揮者に推挙されてしまいました。練習後のわずかな時間、空いているピアノを夢中になって弾いたものです。弾き疲れると頭に浮かんだメロディーを五線紙に書きとめ、作曲のまねごとにも熱中しました。冬の夕べなど、裸電球で手を暖めながら、ピアノを弾ける喜びに浸った青春の日々は、今でも私の心の中に息づいています。音楽の魔力は戦後のひもじさも忘れさせてくれるものでした。

< 恩師・鎗木先生 >

そんな私の様子を、音楽科の鎗木欽作先生が見ていたのです。昭和25年、高校3年5月の湘南祭で自作の合唱曲を指揮したのですが、ステージの下には母の姿がありました。鎗木先生からは是非にと声が掛かったのです。学園祭後、母は音楽室で先生から「昭君を芸大の作曲科にどうしても受験させたい」と延々と口説かれ、余りの熱心さに根負けして、一回限りと言う条件で承諾したというのです。身分違いと驚きましたが、そこまで見込まれてはと芸大受験を決めました。

先生からの紹介状を持って、西荻窪にある芸大教授・池内友次郎先生（高浜虚子の次男）のお宅へ初レッスンに向う途中、突然小田急の中で、朝鮮戦争勃発の号外が配られ、また戦争かと車内が騒然としたことを覚えていました。

それからの7ヶ月間、和声学と対位法に悪戦苦闘したものの、芸大に合格出来た喜びは格別でした。あの湘南祭の母と先生との会話が私の一生を決定したのであり、鍋木先生との出会いなくしては、今の作曲家としての自分はあり得なかったのです。

< 芸術は長く >

芸大の同期は、林光・岩城宏之などの俊英ぞろいで、才能あふれる学友のエネルギーに触発されながら、本格的に音楽の道を歩き始めることになりました。大学2年の冬に念願がなあってピアノを手に入れました。家にピアノが届く前日は、一睡もできなかったですね。俄然創作意欲が湧き、手元に知人の母・清水ちとせさんの詩集『青い煙』があったので、その数編を歌曲にしました。子どもの世界を大人が歌うという趣向から、歌曲集「子供のために」として芸大奏楽堂で演奏したところ、畑中良輔先生の認めるところとなって、楽譜が出版されることになりました。

芸大3年の時、バイオリンの心得があったので「ヴァイオリンとピアノのための小奏鳴曲」を作曲したところ、池内先生に誉めていただき、日本音楽コンクールに出品して入賞しました。翌年も「弦楽四重奏曲」で2位に入賞して、名前が知られるようになりました。そんなことから、芸大卒業後、校歌の作曲依頼がくるようになり、以来作曲した校歌は全国100校以上になります。

当時、NHKに幼児向けのラジオ番組があって、中村メイコさんのお話の後、新しい童謡を紹介していました。たまたま私に「子供のために」という歌曲集があったことから、中田喜直さんの後継に推薦されて、数年間番組を担当する事になったんです。そこで「おはなしゆびさん」をはじめとして、多くの童謡を発表することになります。また、子どもにかかわる音楽活動の一環として、その後「お菓子の世界」など、子どものためのピアノ曲を数多く書くことになりました。

この番組が注目されて、東京放送（現TBS）から、朝日新聞掲載の児童詩「小さな目」を合唱曲にと委嘱されました。私の最初の合唱作品で、その後多くの合唱曲を書くきっかけとなりました。合唱の作曲と指導に関わった縁で、ブルガリアのヴァルナ国際合唱コンクールの審査員の委嘱を受け、3度ほど彼の地を訪問しました。ブルガリアは合唱の王国です。その養分を先取りして作曲した「コタンの歌」で1970年に芸術祭大賞をいただきました。一つの仕事が思いがけない次の仕事をもたらしてくれて、何か見えない力に導かれて作曲活動の輪が広がっていったという気がします。

< 人生の輪舞 >

いつも私を見守ってくれていた母は、1998年1月8日、東京に大雪降りしきる日に永眠しました。92歳でした。ピアノなど買えもしないのに私に習わせることを決め、無謀ともいえる芸大受験まで許してくれた母は、思えば不思議な判断力を持った女性（ひと）でした。母が亡くなって一週間後、また東京が大雪となった日、桜樹会の施設のご老人たちのためにと、星乃ミナさんの素敵な詩「プレゼント マイ ラブ」に、母の姿を重ねて思わず涙しながら曲をつけました。一人っ子である私は、母からの深い愛のプレゼントに支えられ励まされて、ここまでやってくることができたともいえます。けっして恵まれた音楽環境ではなかったことが、かえって幸いしたのかもかもしれません。

1999年冬、たまたま切り替えたNHKハイビジョンで放映されていたメンデルスゾーンのパiano三重奏曲第1番の演奏に、私はおもわず引き込まれました。とりわけ若い女性チェリストが魅力的で、放映ルートを辿った結果、その新鋭チェリストはクリスティーナ・レイコ・クーパーといい、なんと今は亡き恩師池内友次郎先生のお孫さんだったんです。その後、彼女に我が家を訪問してもらう機会があって、ジュリアード大学卒論のための資料を提供することもできました。音楽が取り結んでくれた本当にうれしい出会いでした。

これまでの道のりを振り返ると、いくつもの出会いや出来事が、思いがけない巡り合わせとなって深く結びついて見えます。私の人生は、まさに音楽の女神から手をさしのべられて踊った輪舞（ロンド）なのだ、今あらためて思わずにはいられません。

（聞き手 松本⁴⁵）

Topics

ダークダックス50周年記念リサイタルを
湘友会が後援

昨年、遠山一（金井政幸23回）氏らのダークダックスが、グループ結成50周年の記念講演を各地で開催、シリーズ最後のリサイタルが2001年12月2日藤沢市民会館で行われた。（前号会報で予告）

1958年（昭和33年）2月24日、火災により湘南高校は校舎本館など、過半を失ったが、その際ダークダックスと松山樹子バレエ団が、学校復興援助基金の公演を快諾、同年秋秩父宮記念体育館で共同公演が行われた。そうした活動のお陰で、早くも翌59年には第二世代となるコンクリート建て校舎が完成した。そうした縁から、50周年を記念する昨年未の公演は、湘友会が後援団体のひとつとして入場券の引き受けその他で協力、大勢の湘友会員が懐かしのメロディーを楽しんだ。

2002 年湘友会アレコレ



80 周年記念誌・記念品（絵はがき）販売中

母校創立 80 周年を記念して発行された「記念誌」と「絵はがき」（教員・先輩寄贈の校内展示絵画 8 枚組）を残部が有る限りでお譲りいたします。

価格は「記念誌」1800 円、「絵はがきセット」700 円、共に送料込みの値段です。購入希望者は、湘友会事務所までご連絡ください。振込用紙を送付し、入金後発送します。

絵はがきに収められている絵画は次の 8 葉です。

- 「烏森」塚本 茂（元美術教諭）
- 「パンジーのある静物」山下大五郎
- 「ピンのある静物」三浦次郎
- 「アネモネ」鈴木 清
- 「6 月の港」石川滋彦
- 「辻堂風景（落日）」甘糟三郎
- 「城ヶ島」小泉元生
- 「I 岸の見える丘」澤 昌男²²（元美術教諭）

（セット 8 枚の内）
「烏森」塚本 茂

湘友会会員数 2002

2002 年 3 月の新入会員は合計 722 名で、内訳は全日 399、定時制 61、通信制 262 でした。その結果、2002 年 3 月末現在の会員数は

	総数	うち全日制
会員(物故者を除く)	45,037	25,773
消息判明者	38,419	22,585
判明率(%)	85	88

湘南高校新入生 2002

今年の新入生は、318 名で、男子が 164、女子が 154 と、男子が女子を上回りました。定時制は 120 名（男子 62、女子 58）、通信制は 535 名（含少年工科大学 271、男子 388、女子 147）

湘友会ホームページ

<http://www.shoyukai.org/>

湘友会はホームページを開設以来、2 年間に延べ 4 万回の閲覧を記録しています。湘友会報そのものに加え、支部の例会やクラブ OB / O G 会の予告、母校の行事などをご覧になれます。ホームページならではの情報も楽しんでいただけます。

湘南卒業生の中のメールリスト

湘友会としては直接関与していませんが、加入者間で公開のおしゃべりや情報交換する「メールリスト」があります。湘南の卒業生つまり湘友会員であれば加入できます。加入手順を概略すると、
Majordomo@shonan.dhs.org/ へてに、以下のコマンドを eメールで送ってください。
Subscribe Shonan@shonan.dhs.org [あなたの eメールアドレス] end 加入意思確認のやり取りのあと、メールが届き始めます。

入会后メールを送る（掲示する）場合は Shonan@shonan.dhs.org に送ります。

後記

湘友会報もすべて電腦バージョンになりました。ホームページで見ることができます。

湘友会の会務をお手伝いいただけるボランティア OB&OG を募っております。湘友会事務所までご連絡下さい。

来年 2003 年の総会運営は、卒業年次末尾 3 の方々を中心になります。

33 回生、43 回生、53 回生、63 回生の皆さん、出番です、よろしくお祈りします。

第 44 号の編集スタッフ

（略）

会報編集部から寄稿に関するお願い

毎年 3 月末までに届いた同期会、クラブ OB 会、各種湘友会などの記事は、会報に掲載できます。連絡先明記の上、A4 版用紙に記事（横書き）や写真（1 枚）などをまとめて事務局に直接お送り下さい。もちろん電子的に JFIF - ティク直送 (windows 版)、メール添付も歓迎です。ただし、3 月末の締切期限厳守です。

本年号の記事に、クラス会のお便りもいただきクラス単位の楽しい集いが伺え、同慶の至りです。しかし、今後ミニ集合の記事が増えると、紙面不足も考えられます。次号からは、「同期学年全体にわたる集い」「同窓会全体に呼びかける集い」「クラブごとの OB 全体の催し」について会報に掲載する旨の基準を設けさせていただきます。判断不明のときは、事務局にお問い合わせください。

ご協力よろしくお祈りいたします。